

令和8年3月25日

弥富市長 安藤正明 殿

厚生文教委員会  
委員長 加藤克之  
副委員長 小久保照枝  
委員 那須英二  
委員 高橋八重典  
委員 佐藤仁志  
委員 横井克典  
委員 平居ゆかり  
委員 鈴木りつか

## 「保育士確保及び子育て支援体制の強化」に関する提言書

### 背景と目的

本市において、保育士の人材不足や支援体制の弱さが課題となっており、これは将来の人口維持や地域力の低下にも直結する重要な課題である。厚生文教委員会では、この課題への対応を検討するため、千葉県船橋市および松戸市へ行政視察し、両市が保育分野等への投資を「都市の競争力」と位置付け、国の制度を待つのではなく自治体独自の施策により課題解決を図っている状況を確認した。本提言書は、これらの視察結果および委員会での検討を踏まえ、本市における保育士確保と支援体制の充実に向けた今後の方向性を示すことを目的として取りまとめたものである。

### 提言. 1

#### 保育士の人材確保

保育士の慢性的な人材不足により、現場の負担が増大し子ども一人ひとりと向き合う十分な時間が確保できていない現状が見受けられる。市は責任主体として、住宅支援制度や保育士資格取得支援制度など、継続的な処遇改善や生活支援制度の拡充、また産休・育休による欠員をあらかじめ見込んだ定数管理についても検討し、人材確保に努めるべきである。また、保育士不足の影響により、希望した保育所に入れない児童が存在している状況も指摘されている。このため、潜在的待機児童の定義を明確化するとともに実態調査を行い、その課題解消に向けた対策を講じることを求める。

### 提言. 2

#### 保育に専念できる環境づくり

保育以外の業務が多いことにより、保育士が本来の保育に専念できず、現場の負担となっている。このため、現在導入されている ICT の活用実態について調査・検証を行い、さらなる業務負担の軽減を図るべきである。また、地域ボランティアの積極的な活用や事務補助職員・用務員の配置などにより、保育以外の業務負担の軽減を図るべきである。

### 提言. 3

#### 保育職の魅力向上と定着率の向上

保育士が職業として選択されにくい現状があり、担い手不足は深刻な課題となっている。このため、市内中学生を対象とした職場体験等を活用し、保育士の仕事に対する理解を深めるとともに、その魅力を積極的に発信していくことが重要である。また、現役保育士が卒業校へ出向き、在学生に対して市内保育所の魅力を PR する機会を設けるなど、人材確保につながる取組体制を整備すべきである。

### 総合的な支援体制の整備

家庭の孤立や育児不安を未然に防ぐためには、予防的支援の視点に立った取組が重要である。子どもショートステイなどの制度は整備されているものの、市民に十分に知られていない状況も見受けられる。このため、児童福祉・母子保健・教育が連携し、支援を必要とする対象者にアウトリーチするなど、切れ目のない支援体制を構築すべきである。

また、「制度がある」だけでなく「実際に使える」仕組みとするため、広報・周知の充実を図る必要がある。特に、市ホームページにおいて支援制度を上位階層に表示するなど、分かりやすい情報発信への改善を求める。

---

以上、松戸市および船橋市の先進的な取組を踏まえ、本市における保育人材の確保と定着に関する課題と、その対応の方向性について述べてきた。両市に共通しているのは、保育士を単に「確保すべき人材」として捉えるのではなく、「地域の子育てを支える重要な人的基盤」と位置づけ、処遇改善や居住支援、人材育成などに継続的に取り組んでいる点である。本市においても、保育士不足は既に現場の努力のみで解決できる段階を超えており、自治体としての明確な意思と具体的な対策が強く求められている。処遇改善、ICTの最適化、心理的支援といった取組は、いずれも単発的な対応ではなく、中長期的な視点に立った継続的な施策として進めてこそ実効性を持つものである。子ども・子育て支援は、将来への投資であると同時に、地域の持続可能性を左右する重要な政策分野である。本市が子育て世代から「選ばれるまち」であり続けるためにも、先進自治体の事例調査研究のうえ積極的に取り入れ、保育現場を支える人材への投資を着実に進めていくことを強く要望する。